

S J I 再生から成長に舵

フィンテック戦略の推進 ブロックチェーンと AIでの先駆目指す

ネクスグループ(6634・JQ)が資本参加したSJI(2315・JQ)が企業再生に向けて動きを加速させている。25日には東証に内部管理体制確認書を提出し、現在の「特設注意市場銘柄」からの指定解除を目指す。その陣頭指揮を執る八木隆二代表取締役会長にインタビューした。

25日に「内部管理体制確認書」提出

企業再生

3つの柱

ネクスグループの資本参加で短期的に3つの課題に取り組んできた。第一が「財務のリストラ」だ。中国子会社のリスト

を発表し、これで、ウミを出し尽くした。第三者割当増資と新株予約権の発行により、昨年10月末で債務超過を解消させた。BS(貸借対照表)もきれいになった。新株予約権の未行使もあり、その余力は十分。並行して本社移転と間接部門経費の削減を推進。その結

果、約20%あった販管費率を9%程度に低減と高コスト構造を改善できた。第二は過去の経営による不正を調査し毅然たる対応を進めるとともに、役員員の方バナナス意識の向上のために研修を徹底し、不正競争防止、内部通報制度を整備するなどクリーンな経営を目指す内部改善を行った。

企業成長の源泉

進めている。

財務リストラとコーポレートガバナンスの整備に一定のめどをつけた現在、次のステージとなる

具体的には「イノベーションセンター」からの組織名称の変更で「フィンテック戦略室」を設置した。R&D(研究開発)部門のフィンテック実証実験と販売に向けてテックビューロ社との協業を開始したが、この協業は金融システムを意識しながらも幅広い産業分野での活用を想定したものとなっている。近々にも、その新しい展開を公表できると考えている。

企業成長のための「攻めの段階」に入っている。SJIは総売上高における直接・間接を含めた金融機関向け売上高が約7割となっている。都銀、信金、地銀、JA全農(全国農業協同組合連合会)、生損保とユーザーは幅広く、金融システムに対してSJIが保有する知見は深い。金融システムに強い独立系SJIとしては、異彩な存在だと考えており、銀行の融資から窓口オペレーション、ネットバンキングなどをワンストップで受託開発できることから、金融業界で意識されるフィンテック関連企業としての役割を担うことができる。

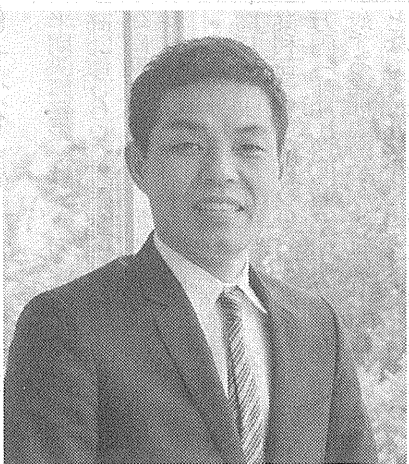
SJIのここまでの動きと今後の予定

2016年	3月16日	第1四半期(11-1月)決算発表(予定)
	2月25日	「内部管理体制確認書」提出
	2月8日	中国法人、フィスコとAI分野における共同研究
	2月1日	フィンテック戦略室設置
	1月21日	テックビューロ社と協業開始
2015年	12月21日	「継続企業の前提に関する注記」解消
	6月1日	ネクスグループ資本参加

フィンテック時代の勝ち組に

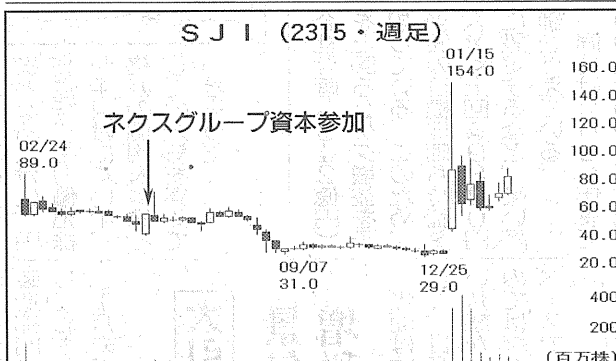
過去10年間は、ネットワーク回線の普及、ハードウェアの大容量化、モバイル普及とハードの劇的な変化が先行してきた。ここからはフィンテックの台頭に象徴されるソフトウェアの進化が求められる。その面において、金融システムではまだ根本的なものが実

用化されていないが、今後はブロックチェーンとAI(人工知能)が焦点になってくるとみている。ブロックチェーンにおいては、SJIは企業として、その潮流の最先端に乗っている強みがある。また、AIについては、基礎となっている技術は、実は、以前と大きく変わっていない。変わったのはデータの大容量化(ビッグデータ)であり、ここにAIの活躍の場がある。各種規制の問題はあるが、オンライン融資や融資判定などの分野でAIが利用されるのはその一端とも考えられる。SJIの長期的なターゲットはやはり、金融分野であり成長余力は大きい。企業再生により社会市場での信用を高め、企業成長のスピードを加速させてステークホルダーに報いたい。



八木隆二SJI会長

「特設注意市場銘柄」の指定解除審査には数カ月間を要することが予想されるが、社会からの信用と信頼を得る努力を



の役割も